

平成29年度
四倉中学校

学校だより

11月16日(木) 第28号

文責 校長 中根 猛

市中教研保健体育科の授業を公開しました

11月13日(月)に中学校の先生方の授業研究会が開催されました。本校では、2年1組の保健の授業を公開しました。授業は、渡邊香居先生と小湊仁一先生が協力して指導しました。授業は、今まで学習してきた応急手当の仕方を状況に応じて活用し適切な処置ができることを目標に展開しました。体育館を会場にして6つのグループに分かれて、それぞれが設定された状況の中で適切に判断し素早く応急手当を行いました。2つのグループが実際に応急手当をする側と準備や評価及びタブレットで撮影する側に分かれて取り組みました。

状況は、「真夏、下校途中の道路に自転車で倒れている人がいる。腕が変形している。」と「体育館で保体の授業中倒れた人がいて動かない。」の2つです。くじを引くように状況が書かれたカードを引きとっさに判断して応急手当を施します。真夏の状況では、傘を持ってきて傷病者に差し掛けて日差しから守ったり腕を固定して三角巾でつつたりしました。倒れて動かない状況では大声でAEDや通報や連絡の指示を適切に出し心肺蘇生法を開始していました。強く、速く、絶え間なくの指示の下に胸骨圧迫に励んでいました。その様子をタブレットで撮影して振り返りの時に自分たちの応急手当の仕方を確認していました。どちらの状況でも、声かけを行っていたことが印象的でした。「大丈夫ですか」「頑張ってください」「あとちょっとで救急車来ますよ」と傷病者をいたわり励ます言葉かけができていました。

今まで学習した止血法、包帯法、心肺蘇生法などを状況に応じて適切に判断して勇気を持って行える力を身に付けて欲しいという指導に当たった渡邊香居先生、小湊仁一先生の思いが伝わった1時間でした。

参加した70名近いいわき市内の中学校の保健体育の先生方に四倉中生徒の一生懸命に学んでいる姿をお見せすることが出来ました。

1年生で放射線教育を実施しました

11月14日(火)に1年生を対象に放射線教育として「放射線リテラシーワークショップ」を実施しました。講師には、NPO法人市民科学研究室代表の上田昌文先生に東京からお越しいただき阿部孝平先生と協力してご指導いただきました。上田先生は、今までいわき市や福島市で放射線教育を実施してきた実績をお持ちの方です。図書室を会場に3、4校時に1組と3組が、5、6校時に2組が行いました。「みらいへのとびら」というテキストを参考にして4～6名のグループワークを基本にすすめました。

まず、震災の時の体験を伝え合いました。その中から原発事故に関わることを取り上げて放射線について学ぶ動機付けとしました。次に10問のクイズをグループで解きながら放射線についての知識を身に付けていきました。例えばこんなクイズです。「放射線は強いエネルギーをもっているから、人の身体など簡単に通り抜けてしまう。」答えは、×。放射線には種類がある。それぞれ、通り抜ける力が違う。根拠になるテキストの記述を示しながらグループごとに指定されたクイズに答えていきました。ここで得た知識を確かめるために空間線量計を持って各グループが校地内10カ所の放射線量を測定してその値を地図上に貼って共有しました。心配するほどの値ではありませんでしたがやはり松林の中や草が繁茂したり枯れ葉がたまりやすいところは高い値を示していることが分かりました。そういう所には、近づかない、長い時間いない等、被爆から身を守る対応を確認しました。

ところで、川魚と海魚のどちらが放射線量が高いでしょうか。圧倒的に川魚でした。淡水の川で育ったウナギやイワナ、マス、ヤマメなどが高い値を示していたのに驚きました。生徒の皆さんは2時間にわたって集中して放射線について学ぶことができました。

心の教育プログラム 気持ちの伝え方

11月15日(水)の5、6校時を使って2年生を対象に「心の教育プログラム」を実施しました。福島大子どもメンタルヘルス支援事業推進室から中村志寿佳先生と佐藤則行先生に講師としてお越しいただき指導していただきました。1年生の時もこのプログラムでストレスマネジメントとリラクゼーションの方法について学んでいます。今回は自分の気持ちを相手に言葉で伝える方法について学びました。最初に言葉だけで伝えられた情報をもとにロケットの様な図形を描いてみました。当然、伝えられたとおりには描けず図形のような簡単にことでも言葉で伝えることはいかに難しいかを体験しました。そして、「攻撃的・一方的」、「非主張的」、「アサーティブ」という3つの伝え方を学びました。その中で自分のことをまず考えるが、相手のことも考えるバランスの良いほどほどの「アサーティブ」の言い方で自分の嫌な思いを上手に伝える練習をしました。ところで、イライラしたときに、まずできるという行動があります。それは、「6秒まで数える」、「その場から離れて休む」、「心の中で歌をうたう」です。お試しください。